

令和元年度（2019年度）通常総会資料

（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

公益社団法人 日本磁気学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
東京YWCA会館 207号室
電話 (03)5281-0106, メール msj@bj.wakwak.com

通常総会議事予定

<配布資料>

1. 議事予定
2. 通常総会資料

<通常総会議事>

議 事

- 第1号議案 令和元年度（自2019年4月1日 至 2020年3月31日）
事業報告に関する件
- 第2号議案 令和元年度（自2019年4月1日 至 2020年3月31日）
収支決算報告に関する件
- 第3号議案 令和2年度（2020年度）事業計画に関する件
- 第4号議案 令和2年度（2020年度）収支予算に関する件
- 第5号議案 名誉会員の推薦に関する件
- 第6号議案 役員1名の退任に伴う後任役員の推薦に関する件

—以上—

第1号議案 令和元年(2019年)年度事業報告に関する件

令和元年度 事業報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

本年は、理事会主導で学会の活性化へ繋げるため、学会の直面している重要な課題を解決すべく特任理事を新たに置くこととし、男女共同参画、学会連携、国際会議について強力に推進する体制を構築した。併せて公益法人としての適正な法人運営のため、必要な定款改訂を実施した。

学術講演会において、前年度 MSJ フェロー称号受賞者によるフェロー講演を初めて実施した。研究者の体系的な研究成果の一連の報告がなされ、大変盛況であった。またポスター講演賞では、学生会員のみならず、企業に属する若手研究者にも対象を広げて今回から授賞を行った。熱心な議論で盛り上がり学術講演会の活性化へつなげることができた。企業展示にも力を入れ、企業と参加者をつなぐ重要な情報交換の場を設けることができた。また若手研究者の論文誌への投稿を促す機会として、MSJ 論文奨励賞による表彰を継続実施した。

新役員体制に移行後も、副会長(運営戦略担当)を中心に広告タスクフォースを立ち上げ、広告代理店との密接な連携により、学会報まぐねへの投稿勧誘を積極的に実施した。多数の広告掲載・情報提供へつなげることができ、財政健全化に資する活動として推進することができた。

その他、論文誌(JMSJ)および論文特集号(TMSJ)の電子化や、学術講演会概要集の Web 配信などによる経費削減を継続して進めた。新型コロナの影響のため、理事会や一部の委員会をオンライン会議により試行実施し、交通費の削減のみならず、担当者間の密接な連携にも寄与できる手段であることを確認した。

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催 (定款4条1号)

1. 1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は、研究成果の発表・討論の場として第43回学術講演会を主催した。

◎第43回学術講演会

期日:	令和元年9月25日(水)～27日(金)
会場:	京都大学吉田キャンパス(京都府)
実行委員長:	小野輝男(京都大学)
講演件数:	286件(うちポスター講演63件)
セッション数:	31
参加者数:	544名

※シンポジウム一覧

- 1) “Symposium on research trends in permanent magnet” 参加者：100名
- 2) “Fundamental theory and application of magnetics of motor drive system for electrical vehicle” 参加者：53名
- 3) “Evolutions of Spintronics Opened up by Topology” 参加者：60名
- 4) “Recent progress of non-destructive measurement and imaging by highly sensitive magnetic field detection techniques” 参加者：80名
- 5) “New measurement approaches to magnetics” 参加者：60名
- 6) “Innovative trials for New Spin Computing” 参加者：60名

◎ポスター講演賞

優秀な講演を行った登壇者に対して「ポスター講演賞」の授与を行った。

- ・ 25pPS-15 石橋未央（京都大学）
「人工反強磁性体中を伝播するスピン波の非相反的な周波数シフト」
- ・ 25pPS-17 池淵徹也（京都大学）
「単結晶 NiO 薄膜におけるスピン流伝送の結晶配向依存性」
- ・ 25pPS-24 笠谷雄一（日本大学）
「GdFeCo フェリ磁性体合金における全光型磁化反転交番誘起の異常ホール効果による電氣的検出」
- ・ 26aPS-14 市川心人（TDK）
「反応性スパッタ法による高品位 MgAl₂O₄バリア強磁性トンネル接合」
- ・ 26aPS-21 堀 洋祐（NHK 放送技術研究所）
「記録素子を一体化形成した磁性細線メモリ素子の試作と磁気光学評価」
- ・ 26aPS-22 磯上慎二（物質・材料研究機構）
「負のスピン分極率を有する窒化鉄ヘテロ接合のスピンホール磁気抵抗効果と電流誘起スピン軌道トルク有効磁場の温度依存性」

◎企業展示の充実

副会長（運営戦略担当）を中心とした広告タスクフォースの主導の下で、学術講演会における企業展示勧誘を積極的に実施した。その結果、今年の学術講演会での出展企業数を上回り、参加者への情報提供・交流の場として、有効に活用することができた。

1. 2 研究会

第 223 回から 227 回までの 5 回の研究会を下記の通り企画・開催した。

- 1) 第 223 回研究会 「磁性分野におけるマテリアルズインフォマティクスの現状」
期日：令和元年 5 月 21 日（火）
会場：中央大学駿河台記念館（東京都）
参加者：28 名
- 2) 第 224 回研究会「磁気キャパシタンス効果の新展開」
期日：令和元年 7 月 29 日（月）
会場：中央大学駿河台記念館（東京都）
参加者：28 名
- 3) 第 225 回研究会／第 51 回強磁場応用専門研究会
／第 3 回バイオマグネティックス専門研究会
「超伝導応用最前線」
期日：令和元年 11 月 15 日（金）
会場：中央大学駿河台記念館（東京都）
参加者：11 名
- 4) 第 226 回研究会／第 74 回スピントロニクス専門研究会
「スピン × センサ × IoT」
期日：令和 2 年 1 月 17 日（金）
会場：東京工業大学キャンパスイノベーションセンター（東京都）
参加者：60 名
- 5) 第 227 回研究会／第 67 回化合物専門研究会
「X 線とレーザーの融合による磁性ダイナミクス」
新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

1. 3 講習会、公開講座

初等磁気工学講座、サマースクール、公開講演会を開催した。

◎第 24 回初等磁気工学講座

期日：令和元年 6 月 18 日（火）
会場：中央大学駿河台記念館（東京都）
参加者：32 名

◎第 42 回サマースクール

期日：令和元年 6 月 19 日（水）～21 日（金）
会場：中央大学駿河台記念館（東京都）
参加者：42 名
公益財団法人加藤科学振興会 平成 31 年度研究集会助成金を受けて実施

◎第 27 回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

期日： 令和元年 9 月 28 日（土）

会場： 京都大学宇治キャンパス

参加者： 児童 35 名

1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会（旧称：スピ
ンエレクトロニクス専門研究会）、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、
光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、バイオ
マグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 85 回	令和元年 5 月 31 日	東京大学 本郷キャンパス	11 名
第 86 回	令和元年 7 月 9 日	東京大学 理学部化学本館	26 名
第 87 回	令和元年 9 月 27 日	京都大学 吉田キャンパス	60 名
第 88 回	令和元年 10 月 17 日-18 日	九州大学 西新プラザ	60 名
第 89 回	令和元年 11 月 29 日	中央大学駿河台記念館	23 名

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 72 回	令和元年 6 月 28 日	中央大学駿河台記念館	31 名
第 73 回	令和元年 11 月 22 日	中央大学駿河台記念館	37 名
第 74 回	令和 2 年 1 月 17 日	東京工業大学 キャンパスイノベーションセンター	60 名
第 75 回	延期	-	-

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 66 回	令和元年 6 月 25 日	日本大学 駿河台キャンパス	13 名
第 67 回	延期	-	-

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 51 回	令和元年 11 月 15 日	中央大学駿河台記念館	11 名
第 52 回	令和元年 12 月 2 日	日本大学 駿河台キャンパス	46 名

第 53 回	令和元年 12 月 16 日	大阪大学	14 名
第 54 回	令和 2 年 3 月 27 日	WEB 開催	11 名

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 39 回	令和元年 9 月 27 日	京都大学 吉田キャンパス	60 名
第 40 回	令和元年 10 月 11 日	奈良商工会議所	10 名
第 41 回	令和 2 年 1 月 31 日	長岡技術科学大学 東京サテライトキャンパス	15 名

6) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 11 回	令和元年 8 月 20 日	長崎大学 文京キャンパス	114 名
第 12 回	令和元年 9 月 26 日	京都大学 吉田キャンパス	55 名

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 3 回	令和元年 11 月 15 日	中央大学駿河台記念館	11 名
第 4 回	令和元年 12 月 16 日	連合会館	34 名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 3 回	令和元年 9 月 26 日	京都大学 吉田キャンパス	80 名

1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の会議を協賛した。

- 1) 第 15 回スパッタリングおよびプラズマプロセスに関する国際シンポジウム
(公社)日本表面真空学会
金沢工業大学扇が丘キャンパス 2019年6月11日(火)～14日(金)
- 2) Magnetism and Optics Research International Symposium 2019 (MORIS 2019)
日本学術振興会 アモルファス・ナノ材料と応用第 147 委員会
Charles University 2019年6月23日(日)～26日(水)

3) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2019
(ISOM'19)

朱鷺メッセ

ISOM'19 組織委員会

2019年10月20日(日)～23日(水)

1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

- ・ Joint IcAUMS-ISAMMA2020 (沖縄コンベンションセンター) 2020年12月14～17日
※準備委員会から移行した実行委員会を中心に、開催に関する検討を進めた。
- ・ INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 2023年5月15～19日
※開催に向けて、IEEE との MOU 締結作業を進めた。

1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetism Societies)との連携

2019年8月23日(金)に Immanuel Kant Baltic Federal University (Kaliningrad, Russia) において、第21回 AUMS Council meeting が開催された。MSJ より AUMS のメンバーとして3名 (AUMS 会長: 高梨弘毅前会長、委員: 中野正基理事、柳原英人理事)、AUMS Secretary として竹村泰司前理事、observer として中川活二会長の計5名が参加した。Joint IcAUMS-ISAMMA2020 に関する計画の説明を行った。

2. 学会誌の刊行（定款4条2号）

Journal of the Magnetism Society of Japan (JMSJ) を43巻3号より44巻2号まで計6回、日本磁気学会論文特集号を3巻1号より3巻2号まで計2回、また会報「まぐね」を14巻2号より15巻1号の計6回発行した。「JMSJ」は論文に特化し、英文論文を掲載した。「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文によらない論文を掲載した。また、学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎に MSJ 論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。また、JMSJ の SCOPUS への登録を完了した。

2. 1 学会誌 Journal of the Magnetism Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
43-3	令和元年5月1日	論文5件、総ページ数 28
43-4	令和元年7月1日	論文3件、総ページ数 21
43-5	令和元年9月1日	論文2件、総ページ数 14
43-6	令和元年11月1日	論文5件、総ページ数 28
44-1	令和2年1月1日	論文5件、総ページ数 25
44-2	令和2年3月1日	論文5件、総ページ数 26

*印刷冊子ではなく、Web 掲載とし、12月に1巻分をまとめた CD を配布。

2. 2 日本磁気学会論文特集号

Transaction of the Magnetism Society of Japan -Special Issues-

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
3-1	令和元年5月1日	論文22件、総ページ数 119
3-2	令和元年9月1日	論文1件、総ページ数 6

*印刷冊子ではなく、Web 掲載とし、12月に1巻分をまとめた CD を配布。

2. 3 MSJ 論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和元年5月	<p>Journal of the Magnetism Society of Japan 43-3</p> <p><修士課程の部></p> <p>信州大学 秋山知輝</p> <p>中央大学 芹澤伽那</p> <p>日本磁気学会論文特集号 3-1</p> <p><修士課程の部></p> <p>日本大学 苗木俊樹</p> <p>山形大学 佐藤陸規</p> <p>東北大学 伊藤亘輝</p> <p>東北大学 水穴裕真</p> <p>東北大学 羽根吉紀</p>

令和元年 11 月	Journal of the Magnetism Society of Japan 43-6 <修士課程の部> 信州大学 遠藤 俊
令和 2 年 1 月	Journal of the Magnetism Society of Japan 44-1 <博士課程の部> 京都大学 西村幸恵
令和 2 年 3 月	Journal of the Magnetism Society of Japan 44-2 <博士課程の部> 九州大学 牙 暁瑞 <修士課程の部> 秋田大学 柳沢敏輝

2. 4 会報誌「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
14-2	平成 31 年 4 月 1 日	論説「希土類-鉄時代の到来」(入山恭彦) 特集「航空機産業分野における磁気技術」 解説 2 件、トピックス 3 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 50
14-3	令和元年 6 月 1 日	論説「脳磁計の開発: 磁束量子、零位法、不確かさ」 (上原 弦) 特集「放射光・中性子線で見る磁気」 解説 2 件、トピックス 2 件 初等連載講座 2 件 磁気研究よもやま話 1 件 総ページ数 60
14-4	令和元年 8 月 1 日	会長挨拶 (中川活二) 論説「磁気センシング研究を振り返って」(圓福敬二) 特集「心臓磁界計測の最近の動向」 解説 2 件、トピックス 3 件 初等連載講座 1 件 新技術・新製品 1 件 総ページ数 54
14-5	令和元年 10 月 1 日	論説「Givord 先生の思い出」(小林久理眞) 特集「IoT/IoH 時代に向けた磁気抵抗デバイスの新展開」 解説 2 件、トピックス 2 件 初等連載講座 1 件 磁気研究よもやま話 1 件 総ページ数 58
14-6	令和元年 12 月 1 日	令和元年度 日本磁気学会授賞紹介 論説「創造力」の前に「想像力」(早乙女英夫) 特集「ニューロデバイスの研究最前線」

		解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 84
15-1	令和 2 年 2 月 1 日	論説「磁気学会と私」(宝野和博) 特集「超低消費電力磁気メモリの開発最前線」 解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 磁気研究よもやま話 1 件 総ページ数 78

昨年度より、副会長（運営戦略担当）を中心に広告タスクフォースを立ち上げ、広告代理店と密接に協力して学会報まぐねへの広告投稿勧誘を積極的に継続実施した。広告出稿企業のすそ野を広げることができ、まぐねの魅力向上につながった。

3. 研究および調査の実施（定款 4 条 3 号）

3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス（No.165～172）やメールマガジン（No.240～252）により会員へ情報提供を行ったほか、Facebook による情報発信サービスを行った。

3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

本学会が関連する分野の研究活動を活発にするため、各種会合、講演会、展示会などにおいて本学会の広報活動を強化した。ポスターや入会案内パンフレット等による会員入会勧誘を積極的に推進した。また学会パンフレットの改訂やメディアデータ（学会報まぐねへの広告勧誘用パンフレット）の整備も行った。

3. 3 ホームページの充実

本学会ホームページの構成を見直し、新ホームページへ移行した。スマホ・タブレット対応も含め、ユーザーの視認性や利便性を高めた。また英語化も推進した。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 4 条 4 号）

令和元年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。前年度より引き続き、学会賞および業績賞受賞者に対して、MSJ フェロー称号の授与を行った。同制度は、学会へのこれまでの貢献に対して尊敬と感謝の意を示すと共に、授与された者がフェローもしくはライフフェローとして、引き続き学会活動に積極的に寄与することを促すことにより、学会の活性化を推進するものである。

学会賞、業績賞、優秀研究賞：中川活二委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞：小野輝男委員長、学生講演賞、技術功労賞：齋藤秀和委員長、学会活動貢献賞：齋藤秀和委員長、の体制でそれぞれ選考を担当した。

◎学会賞・フェロー

- ・高梨 弘毅 氏 (東北大学)
「規則合金を中心としたスピントロニクス材料の先進的研究」
- ・広沢 哲 氏 (物質・材料研究機構)
「希土類磁石および磁性材料に関する研究」

◎業績賞・フェロー

- ・山口 正洋 氏 (東北大学)
「高周波磁気工学に関する研究」
- ・井上 光輝 氏 (豊橋技術科学大学)
「人工磁気格子の基礎と応用に関する研究」

◎優秀研究賞

- ・谷山 智康 氏 (名古屋大学)
「界面マルチフェロイクスにおける磁性制御に関する研究」
- ・Hossein Sepehri Amin 氏 (物質・材料研究機構)
「高保磁力 Dy フリーネオジム磁石の開発指針の確立」
- ・梅津 理恵 氏 (東北大学)
「ハーフメタル型電子状態を有するホイスラー合金の相安定性と磁気特性」

◎論文賞

- ・N. Denis, S. Takeda, K. Fujitani, K. Fujisaki, and S. Odawara
「Anisotropic Magnetic Core for the Iron Loss Reduction of Permanent Magnet Synchronous Motor」
J. Magn. Soc. Jpn., **42**, pp.62-71 (2018).
- ・K. Oda, T. Moriyama, and T. Ono
「Magnetoresistance in Bilayers of Heavy Metal and Non-collinear Antiferromagnet」
J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.1-5 (2019).
- ・S. Saito, H. Sato, K. Ooki, K. Akahane, and H. Uchida
「Near-Infrared Magneto-Refractive Effect for Antiferro-Magnetically Exchange Coupled Co/Ru Multilayer Film in Transmission Configuration」
J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.25-28 (2019).

◎学術奨励賞（内山賞）

- ・清水 章弘 氏（東北大学）
「コラム状微細組織を有する L10 FePt グラニューラ媒体用粒界拡散を利用した網目状隆起下地層の提案」
日本磁気学会論文特集号 **3**, pp.7-11 (2019).
- ・芹澤 伽那 氏（中央大学）
「Magnetostriction Behaviors of Fe_{100-x}Co_x Alloy Epitaxial Thin Films under Rotating Magnetic Field」
J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.50-58 (2019).
- ・占部 諒 氏（九州工業大学）
「磁気駆動マイクロポンプを内蔵したノートPC用液冷システムの試作と評価」
日本磁気学会論文特集号 **3**, pp.48-53 (2019).
- ・市川 優太 氏（東北大学）
「リラクタンズネットワーク解析に基づく巻線界磁型クロールモータの回転子表面の渦電流損算定」
日本磁気学会論文特集号 **3**, pp.64-68 (2019).
- ・水穴 裕真 氏（東北大学）
「埋込磁石型磁気ギヤの性能向上に関する検討」
日本磁気学会論文特集号 **3**, pp.74-78 (2019).
- ・羽根 吉紀 氏（東北大学）
「LLG 方程式を用いた鉄心加工に伴う磁気特性変化の予測手法」
日本磁気学会論文特集号 **3**, pp.90-94 (2019).

◎学生講演賞（櫻井講演賞）

- ・蓬田 貴裕 氏（東北大学）
「熱間加工 Nd-Fe-B 磁石の微小領域の高感度磁化測定」
講演番号：第 42 回 学術講演会 14pC-4
- ・新堀 拓哉 氏（秋田大学）
「FeCo への VN 添加による正方晶構造の安定化と一軸磁気異方性」
講演番号：第 42 回 学術講演会 14pC-10
- ・鮎澤 祥史 氏（長野高専）
「正/負透磁率材料の積層伝送線路の表皮効果抑制に関する理論的検討」
講演番号：第 42 回 学術講演会 14pD-10
- ・佐藤 匠 氏（東北学院大学）
「FePt/Fe ナノコンポジット試料のポストアニールによる磁気特性と磁区構造観察」

講演番号：第 42 回 学術講演会 11pPS-8

- ・ 齊藤 豪太 氏 (東北学院大学)
「Sm(Fe,Co)12 薄膜の Co 添加による磁気特性の変化」
講演番号：第 42 回 学術講演会 12aPS-39
- ・ 山本 晃弘 氏 (慶応義塾大学)
「表面弾性波の不均一スピン依存散乱効果を用いたスピン流生成実験」
講演番号：第 42 回 学術講演会 11pPS-17
- ・ 原田 俊英 氏 (日本大学)
「有機金属分解法を用いたビスマス鉄ガーネット薄膜の作製および磁気表面プラズモン効果」
講演番号：第 42 回 学術講演会 12aPS-43
- ・ Q. Xiang 氏 (筑波大学)
「Large perpendicular magnetic anisotropy in Fe/MgAl₂O₄ heterostructures」
講演番号：第 42 回 学術講演会 13aD-1
- ・ 前田 哲哉 氏 (金沢大学)
「交流磁界がヒト肝がん細胞への抗がん剤作用に及ぼす影響評価」
講演番号：第 42 回 学術講演会 14aB-11

◎出版賞

- ・ 一ノ倉 理 氏、田島 克文 氏、中村 健二 氏、吉田 征弘 氏
書籍名/出版社：「磁気回路法によるモータの解析技術」(科学情報出版)
- ・ 三俣 千春 氏
書籍名/出版社：「磁気工学の解析法」(共立出版)

◎学会活動貢献賞

- ・ 神原 陽一 氏 (慶應義塾大学)、中田 勝之 氏 (TDK)
「企画委員会活動を通じた学会活動の活性化への貢献」
- ・ 塚本 新 氏 (日本大学)
「第 42 回日本磁気学会学術講演会開催への貢献」

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款4条5号）

下記の会合を協賛した。（開催日順）

- 1) ナノ学会第17回大会
かごしま県民交流センター
ナノ学会
2019年5月9日(木)～11日(土)
- 2) 第35回希土類討論会
大阪大学銀杏会館
日本希土類学会
2019年5月15日(水)～16日(木)
- 3) 第31回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム(SEAD31)
東京工業大学すずかけ台キャンパス
日本機械学会
2019年5月22日(水)～24日(金)
- 4) 応用物理学会超伝導分科会第59回研究会
応物会館
応用物理学会 超伝導分科会
2019年6月17日(月)
- 5) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2019 (第13回)
東北大学川内北キャンパス
(特非)natural science
2019年7月14日(日)
- 6) 2019年度J-PARC MLF 産業利用報告会
秋葉原コンベンションホール
J-PARC センター 他
2019年7月18日(木)～19日(金)
- 7) 2019年電気学会産業応用部門大会
長崎大学文教キャンパス
電気学会
2019年8月20日(火)～22日(木)
- 8) 第38次モータ技術フォーラム
日本能率協会 他
(一社)日本能率協会
2019年9月～2020年3月
- 9) 第3回J-PARC 国際シンポジウム
つくば国際会議
J-PARC センター
2019年9月23日(月)～26日(木)
- 10) 第48回結晶成長国内会議 (JCCG-48)
大阪大学銀杏会館
日本結晶成長学会
2019年10月30日(水)～11月1日(金)
- 11) 日本希土類学会第37回講演会
崎陽軒本店会議室
日本希土類学会
2019年11月6日(水)
- 12) 2019年度学会連携出張リフレッシュ理科教室
松本市立安曇小中学校
応用物理学会 (北陸・信越支部)
2019年11月8日(金)
- 13) 第28回ポリマー材料フォーラム
ウイנקあいち
高分子学会
2019年11月21日(木)～22日(金)

- 14) 第22回ミレニアム・サイエンス・フォーラム
駐日英国大使館
ミレニアム・サイエンス・フォーラム
2019年11月22日(金)
- 15) RCJ 信頼性シンポジウム
太田区産業プラザ PIO
(一社)日本電子部品信頼センター
2019年11月27日(水)~26日(木)
- 16) 第25回日本磁気科学会 2019 分科会研究
日本大学理工学部駿河台校舎
日本磁気科学会
2019年12月2日(月)
- 17) 2019年度磁性流体講演会
名古屋工業大学大学会館
磁性流体研究連絡会
2019年12月5日(木)~6日(金)
- 18) 第1回世界エンジニアリングデイ記念シンポジウム
東京大学山上会館
(公社)日本工学会
2020年3月5日(木)
- 19) 2019年度ビームサイエンスフェスタ
ザ・ヒロサワシティ会館
高エネ研、J-PARC センター、CROSS 他
2020年3月12日(木)~14日(土)
- 20) IIP2020 情報・知能・精密機器部門講演会
東京電機大学東京千住キャンパス
(一社)日本機械学会
2020年3月26日(木)~27日(金)

II 処務の概要

1 会議

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日の間に下記の会議を開催した。

1) 総会

本年度は令和元年 6 月 17 日に通常総会を行い、以下の議案が審議され、原案通り可決された。議案として、定款の改訂、平成 30 年度事業報告、平成 30 年度収支決算報告、令和元年度事業計画、令和元年度収支予算、名誉会員の推薦、令和元年・2 年度役員の推薦についての議案が上程された。定款の改訂については、一昨年度に理事会で立ち上げた「委任状対策プロジェクト」にて、正会員に呼びかけを集中的に行った結果、必要な定足数に達し、審議を完了することができた。

2) 顧問会

顧問会を令和元年 9 月 27 日に開催した。

3) 理事会

下記期日に開催した。

令和元年 5 月 10 日、令和元年 7 月 24 日、令和元年 10 月 7 日、
令和元年 12 月 27 日、令和 2 年 3 月 23 日

4) 諸委員会

総務委員会 2 回、 財務委員会 1 回、 企画委員会 6 回
編集委員会 6 回、 広報委員会 1 回、 AUMS Council meeting 2 回
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 1 回
論文賞、学術奨励賞（内山賞）選考委員会 1 回、
学生講演賞、新技術・新製品賞、学会活動貢献賞選考委員会 3 回（メール審議）
出版賞選考委員会 1 回

5) その他

名誉会員懇談会および賛助会員懇談会を令和元年 9 月 26 日に開催した。

賛助会員として学会を支えている企業のうち、令和元年 11 月 13 日に TDK 株式会社テクニカルセンターを訪問し、社風や業態などに関するインタビューを実施し、その内容を学会報まぐねに「賛助会員訪問記」として掲載した。賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として継続実施する。

また、賛助会員と会員をつなぐ活動の一助として、学会報まぐねの「新技術・新製品」コーナーへの投稿呼びかけも継続する。

本学会の財務状況の改善を目指し、財務委員会は予算執行状況に関する情報収集と分析を進めた。学会の支出と収入のバランスに関して、予算項目ごとに検討を行い、2020 年度予算案の立案に関して提言を行うなど、種々の取り組みを実施した。コロナウイルス関連で予算計画が大幅に狂うリスクが予想されるため、赤字縮小と収入増の方策を継続検討する。

2 契約に関する事項

◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
平成 28 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年
平成 29 年 4 月 1 日	学協会著作権協議会	複写に関わる権利委託	5 年
平成 29 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年
平成 31 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年
平成 31 年 4 月 1 日	高垣公認会計士 税理士事務所	決算の監査	1 年
平成 30 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年
令和元年 5 月 23 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和元年 12 月 10 日	(株)国際文献印刷社	日本磁気学会誌印刷	1 年
平成 31 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年
令和元年 1 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE	National Society Agreement	3 年
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE Magnetics Society	Sister Society Agreement	3 年

3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 2 年 3 月 3 1 日現在)	前年度末現在 (平成 3 1 年 3 月 3 1 日現在)	増減
正会員	1, 2 0 6	1, 2 5 7	- 5 1
賛助会員	6 7	7 2	- 5
学生会員	3 5 5	3 5 4	- 1
名誉会員	4 5	4 5	± 0

第2号議案 令和元年度(2019年)収支決算報告に関する件

貸借対照表

2020年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	53,872	65,137	△ 11,265
普通預金	14,675,383	15,860,038	△ 1,184,655
未収金	914,120	1,067,640	△ 153,520
前払金	1,538,777	822,880	715,897
流動資産合計	17,182,152	17,815,695	△ 633,543
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
特定預金	49,831,673	49,830,761	912
学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	17,009,023	0
事務所充実特定預金	671,942	1,110,790	△ 438,848
出版広報特定預金	6,574,448	6,574,448	0
萌芽の研究推進特定預金	20,774,030	20,774,030	0
退職給付引当預金	2,802,230	2,362,470	439,760
特定資産合計	49,831,673	49,830,761	912
(3) その他固定資産			
什器備品	86,113	1	86,112
電話加入権	134,625	134,625	0
敷金	1,072,500	1,072,500	0
その他固定資産合計	1,293,238	1,207,126	86,112
固定資産合計	61,124,911	61,037,887	87,024
資産合計	78,307,063	78,853,582	△ 546,519
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	617,000	687,000	△ 70,000
前受会費	7,353,500	6,981,500	372,000
預り金	376,378	451,000	△ 74,622
源泉所得税(給)	161,290	179,950	△ 18,660
住民税	131,200	106,800	24,400
社会保険料	83,888	161,190	△ 77,302
雇用保険料	0	0	0
所得税(報)	0	3,060	△ 3,060
賞与引当金	911,800	763,275	148,525
未払金	83,888	218,584	△ 134,696
未払消費税	559,620	349,720	209,900
流動負債合計	9,902,186	9,451,079	451,107
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,802,230	2,362,470	439,760
固定負債合計	2,802,230	2,362,470	439,760
負債合計	12,704,416	11,813,549	890,867
III 正味財産の部*			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産合計	10,247,317	10,247,317	0
(うち特定資産への充当額)	(10,247,317)	(10,247,317)	(△325,970)
2. 一般正味財産	55,355,330	56,792,716	△ 1,437,386
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(36,782,126)	(37,220,974)	438,848
正味財産合計	65,602,647	67,040,033	△ 1,437,386
負債及び正味財産合計	78,307,063	78,853,582	△ 546,519

*「正味財産」の記載区分について前年度より遡及的に修正再表示している(注記7参照)。

正味財産増減計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	701	1,300	△ 599
基本財産運用益	701	1,300	△ 599
特定資産運用益	582	577	5
特定資産運用益	582	577	5
受取入会金	265,000	226,000	39,000
受取入会金	265,000	226,000	39,000
受取会費	16,376,182	17,191,210	△ 815,028
正会員費収入	11,100,000	11,673,200	△ 573,200
学生会員費収入	676,000	717,000	△ 41,000
賛助会員収入	4,600,182	4,801,010	△ 200,828
事業収益	19,989,599	18,951,064	1,038,535
学術講演会収入	8,274,096	7,918,020	356,076
研究会収入	1,886,150	2,198,000	△ 311,850
講習会収入	2,066,000	2,060,000	6,000
岩崎コンファレンス収入	502,000	0	502,000
専門研究会収入	18,000	796,000	△ 778,000
投稿料収入	2,124,100	1,675,000	449,100
その他投稿料	285,000	0	285,000
和文著作権料収入	217,133	177,004	40,129
広告料収入	4,049,220	3,902,040	147,180
会誌別刷り代収入	392,400	65,000	327,400
40周年記念事業収入	175,500	160,000	15,500
受取補助金等	150,000	500,000	△ 350,000
受取民間助成金	150,000	500,000	△ 350,000
雑収益	618,379	683,593	△ 65,214
受取利息収入	87	113	△ 26
雑収入	618,292	683,480	△ 65,188
経常収益計	37,400,443	37,553,744	△ 153,301
(2) 経常費用			
① 事業費	34,367,514	35,504,282	△ 1,136,768
雑誌発行費	6,729,162	7,165,434	△ 436,272
会誌発行費(まぐね)	5,900,727	6,464,734	△ 564,007
論文発行費	730,007	641,084	88,923
電子ジャーナル発行費	98,428	59,616	38,812
ウェブ管理費	442,515	1,515,499	△ 1,072,984
ホームページ管理費	442,515	1,515,499	△ 1,072,984
研究発表費	8,845,380	8,647,615	197,765
学術講演会開催費	5,329,512	4,497,449	832,063
学術会合費	3,275	304,629	△ 301,354
研究会開催費	1,228,270	1,607,706	△ 379,436
講習会開催費	1,505,511	1,500,718	4,793
専門研究会費	156,717	737,113	△ 580,396
岩崎コンファレンス開催費	622,095	0	622,095
表彰・奨励費	268,220	184,560	83,660
表彰費	268,220	184,560	83,660
活性化費	153,538	210,350	△ 56,812
支払保険料	53,932	15,806	38,126
会議費	1,562,761	2,219,637	△ 656,876
諸委員会費(企画・編集・表彰)	1,562,761	2,219,637	△ 656,876
40周年記念事業費	0	0	0
給与手当	9,981,420	9,769,467	211,953
職員通勤交通費	326,805	321,737	5,068
福利厚生費	12,365	12,119	246
法定福利費	1,152,341	1,107,598	44,743
什器備品費	370,191	48,493	321,698
消耗品費	70,465	70,163	302
印刷費	55,440	50,803	4,637
通信・運搬費	231,616	280,097	△ 48,481
会員データ管理費	274,260	271,905	2,355
事務所費	2,749,203	2,721,600	27,603
賃借料	2,596,793	2,569,190	27,603
リース料	152,410	152,410	0
払込手数料	102,010	99,060	2,950
租税公課	470,946	294,005	176,941
雑費	109,379	142,842	△ 33,463
減価償却費	36,167	0	36,167
退職給付費用	369,398	355,492	13,906

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	4,470,315	4,960,769	△ 490,454
給与手当	1,901,223	1,860,851	40,372
職員通勤交通費	62,249	61,283	966
福利厚生費	2,355	2,308	47
法定福利費	219,494	210,971	8,523
什器備品費	70,513	9,237	61,276
消耗品費	13,422	13,364	58
印刷費	10,560	9,677	883
通信・運搬費	44,118	53,352	△ 9,234
会員データ管理費	52,240	51,792	448
事務所費	523,657	518,400	5,257
賃借料	494,627	489,370	5,257
リース料	29,030	29,030	0
払込手数料	19,431	18,868	563
諸謝金	544,000	540,000	4,000
租税公課	89,704	56,001	33,703
雑費	20,834	27,208	△ 6,374
減価償却費	6,889	0	6,889
会議費	819,264	1,459,744	△ 640,480
総会費	289,833	374,888	△ 85,055
理事会費	448,104	816,906	△ 368,802
諸委員会費（総務・財務・広報）	75,410	71,132	4,278
選挙管理委員会	5,917	196,818	△ 190,901
退職給付費用	70,362	67,713	2,649
経常費用計	38,837,829	40,465,051	△ 1,627,222
当期経常増減額	△ 1,437,386	△ 2,911,307	1,473,921
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,437,386	△ 2,911,307	1,473,921
一般正味財産期首残高*	56,792,716	59,704,023	△ 2,911,307
一般正味財産期末残高	55,355,330	56,792,716	△ 1,437,386
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高*	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産期末残高	10,247,317	10,247,317	0
III 正味財産期末残高	65,602,647	67,040,033	△ 1,437,386

*「正味財産」の記載区分について前年度より遡及的に修正再表示している(注記7参照)。

財産目録

2020年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)			
	現金	現金手元有高	53,872
	普通預金	三菱UFJ銀行神保町支店	5,179,823
		三井住友銀行神田支店	3,885,229
		みずほ銀行神田支店	1,411,716
		ゆうちょ銀行振替口座	4,198,615
		ゆうちょ銀行通常貯金	0
	未収金	投稿料、広告料	914,120
	前払金	研究会等会場費	1,538,777
流動資産合計			17,182,152
(固定資産)			
基本財産	定期預金	みずほ銀行神田支店	10,000,000
	基本財産合計		10,000,000
特定資産	学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	普通預金(みずほ銀行神田支店)	2,000,000
	国際会議準備特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	17,009,023
	事務所充実特定預金	定期預金(みずほ銀行神田支店)	671,942
	出版広報特定預金	定額貯金他	6,574,448
	萌芽的研究推進特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)	20,774,030
	退職給付引当預金	普通預金(みずほ銀行神田支店)	2,802,230
	特定資産合計		49,831,673
その他固定資産	什器備品	パソコン	86,113
	電話加入権		134,625
	敷金	東京YWCA	1,072,500
	その他固定資産合計		1,293,238
固定資産合計			61,124,911
資産合計			78,307,063
(流動負債)			
	前受金	2020年度入会金・研究会資料予約購読料他	617,000
	前受会費	2020年度会費	7,353,500
	預り金	源泉所得税、社会保険料等	376,378
	賞与引当金	2019年度職員に対する期末手当の支払いに備えたもの	911,800
	未払金	研究会資料送料・社会保険料	83,888
	未払消費税		559,620
流動負債合計			9,902,186
(固定負債)			
	退職給付引当金	職員に対するもの	2,802,230
固定負債合計			2,802,230
負債合計			12,704,416
正味財産			65,602,647

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に基づく定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は次のとおりである。

什器備品 3年

(2) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際会議準備特定預金	17,009,023	0	0	17,009,023
事務所充実特定預金	1,110,790	0	438,848	671,942
出版広報特定預金	6,574,448	0	0	6,574,448
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	0	0	20,774,030
退職給付引当特定預金	2,362,470	439,760	0	2,802,230
小計	49,830,761	439,760	438,848	49,831,673
合計	59,830,761	439,760	438,848	59,831,673

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	4,573,287	12,435,736	0
事務所充実特定預金	671,942	0	671,942	0
出版広報特定預金	6,574,448	0	6,574,448	0
萌芽的研究推進特定預金	20,774,030	4,674,030	16,100,000	0
退職給付引当特定預金	2,802,230	0	0	2,802,230
小計	49,831,673	10,247,317	36,782,126	2,802,230
合計	59,831,673	10,247,317	46,782,126	2,802,230

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品(PC)	121,800	121,799	1
什器備品(PC)	129,168	43,056	86,112
合計	250,968	164,855	86,113

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

補助金等の名称	交付者	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
研究会助成金(KC-1906)	加藤科学振興会	0	150,000	150,000	0	—
合計		0	150,000	150,000	0	

7. その他

平成18年度の財務諸表から新公益法人会計基準が適用され、「正味財産」は「指定正味財産」および「一般正味財産」に区分表示されることになったが、その際、従来「正味財産」の内書きとして記載されていた「基本金」10,000,000円については、平成18年度以降「指定正味財産」の区分に記載してきたところであるが、今般基本金の設定の経緯について当学会設立当時に遡って調査したところ当該基本金は、寄付者の意思によるものではなく当法人により基本財産として維持すべき資産として処理されたものであるため「一般正味財産」で受け入れるべきものであったことが判明した。従って、当該10,000,000円を「指定正味財産」の区分に含めることは誤りであり、当年度の財務諸表において前年度より「一般正味財産」として遡及的に修正再表示している。

公益社団法人日本磁気学会
代表理事 中川 活二 殿

監査結果報告

令和 2 年 5 月 2 / 日

監事： 

監事： 高野 良紀 

私たち監事は令和 元 年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 理事職務執行の監査結果

各理事の執務状況は良好であった。

(2) 財務諸表および収支計算書の監査結果

適正に処理・記載されていると認めました。

(3) 監査人の意見

財務状況の改善と回り、積極的な学会
運営を願いたい。

—以上—

公益社団法人日本磁気学会

代表理事 中川 活二 殿

監査結果報告

令和 2 年 5 月 22 日

監事： 中谷 晃 一 

監事： 

私たち監事は令和 元 年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 理事職務執行の監査結果
- (2) 財務諸表および収支計算書の監査結果
- (3) 監査人の意見

独立監査人の監査報告書

2020年5月20日

公益社団法人 日本磁気学会
会 長 中川 活二 殿

高垣公認会計士事務所

公認会計士

高垣宗太郎 

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人日本磁気学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財務諸表に対する注記（以下「財務諸表等」という）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本磁気学会の2020年3月31日現在の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して財産目録を作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本磁気学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

第3号議案令和2年度（2020年度）事業計画に関する件

令和2(2020)年度 事業計画

(2020年4月1日～2021年3月31日)

本年度も財政的に厳しい状況が継続すると認識しており、財務体制改善に関する取り組みやガバナンスの強化を一層進める。一方で、このような時こそ会員の満足度を高める学会運営を行う必要があるとの認識のもと、各種イベント開催の他、賛助会員の学会運営への参画など各種施策の改善と実行を通して、会員へのサービス向上に努めていく。

特に本年度は下記の6点の活動を重点的に進めることにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

なお、本年度は、安全確保のために、新型コロナウイルス(COVID-19)に対する行政判断を尊重し、理事会での判断を経て、必要に応じて柔軟な対応を行う事も想定する。

◎学会活動のポイント

1. 理事会主導による学会業務の推進機能の強化・充実
2. 財務体制の強化
3. 新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化
4. 学会連携の促進による新分野の構築および活性化
5. 各種媒体を用いて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化
6. 賛助会員の学会運営への意向反映と参画強化

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。ただし新型コロナウイルスの状況により、行事の延期や中止の判断をする場合がある。
- ・ 本年度の学術講演会は、2020年12月14日(月)から17日(木)まで、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)においてJoint IcAUMS-ISAMMA 2020(第44回日本磁気学会 学術講演会)として開催する。国内からの新しい磁気に関する研究成果をもれなく集めるとともに、AUMS加盟ソサイエティのある中国、韓国、台湾、ベトナム、ロシアからの講演参加や世界各国からの招待講演などを含め、約80セッションを設け、約500篇の講演論文を集めて行う予定である。また、昨年度に続き、シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えてポスターセッションを併設する予定である。なお今回に限り、ポスター講演賞の授賞は行わず、AUMSによるMigaku Award授与に変えて実施する。
- ・ 前年度にフェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会(Joint IcAUMS-ISAMMA 2020)内において実施する。

1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第44回日本磁気学会 学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加

者の満足度の向上につなげる。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 44 回日本磁気学会 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 44 回日本磁気学会 学術講演会の概要集となる Digests of Joint IcAUMS-ISAMMA 2020 についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 44 回日本磁気学会 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 42 回、第 43 回日本磁気学会 学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 44 回日本磁気学会 学術講演会 (Joint IcAUMS-ISAMMA 2020) においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッションを併設することによって発表形式の多様化が進むことから、賛助会員や会員にとって、より参加し易い学術講演会となる。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 44 回日本磁気学会 学術講演会 (Joint IcAUMS-ISAMMA 2020) では、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 5 回を目安として定期的
に開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。ただし新型コロナウイルスの状
況により、行事の延期や中止の判断をする場合がある。

	開催期日	研究会の主題(仮題)
第 228 回	2020 年 5 月	磁気計測を利用した非破壊検査技術とインフラ診断応用
第 229 回	2020 年 7 月	磁気センサ
第 230 回	2020 年 11 月	テラヘルツのスピンの
第 231 回	2021 年 1 月	磁気を利用したイノベーション(ベンチャー企業)
第 232 回	2021 年 3 月	強磁場応用

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 今年度も例年通り、下記の講習会や公開講演会の実施を進める。ただし新型コロナウイルス
の状況により、行事の延期や中止の判断をする場合がある。

- ・「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を、6 月に開催する。日本磁気学会 初等磁気工学講座は 6 月 23 日(火)に、また日本磁気学会 サマースクールは 6 月 24 日(水)～6 月 26 日(金)に、それぞれ東京工業大学キャンパスイノベーションセンターで開催する。電気学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。
- ・青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年 1～2 回程度開催する。

1. 4 専門研究会

- ・専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会(旧「スピンエレクトロニクス専門研究会」より名称変更)、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年 2 回以上開催する。ただし新型コロナウイルスの状況により、行事の延期や中止の判断をする場合がある。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2. 1 学会誌および学会報の発行

- ・令和 2 年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.44, No.3(通巻第 309 号)から Vol.45, No.2(通巻第 314 号)まで隔月で 6 回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・学会報「まぐね」を Vol.15, No.2(通巻第 116 号)より Vol.16, No.1(通巻第 121 号)まで隔月で年度内に 6 回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2. 2 出版活動の推進

- ・本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。令和 2 年度は、教科書シリーズ 1 巻、啓発書シリーズ 1 巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2. 3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と ESCI 登録に向けた取り組み

- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の ESCI 登録申請を行う。
- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
 - 一昨年度行った査読体制の見直しを利用し、迅速な査読を継続する。
 - (2) Review 論文の充実
 - 理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。

学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。

(3) 投稿論文の充実

専門研究会からの投稿を募る。

投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。

引用数の拡大に関する呼びかけを進める。

(4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、各種電子媒体と連携して戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させる活動を、副会長(運営戦略担当)を中心とした広告タスクグループ活動によって継続するとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 令和 2 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ MSJ 論文奨励賞・ポスター講演賞・学術奨励賞・学生講演賞の受賞者を学術講演会の懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA) (令和 2 年 1 月末に更新済み)に基づく相互協力を継続する。特に、平成 31 年度にスタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との話し合いの機会は、今年度も継続する。
- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、令和 2 年度においては、韓国での AUMS 会議において、IcAUMS2020 等に向けて密な情報交換を行う。
- ・ AUMS カウンシルミーティングへの参画や IcAUMS の運營業務は主に国際委員会が担ってきたが、新たに欧米を含む関連国際会議との連携についても検討する。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち本学会未入会者に対する入会勧奨や、学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。

- ・ 本学会が主催して日本で開催する Joint IcaUMS-ISAMMA2020(沖縄:2020年12月14-17日)について、すでに First call for papers を作成し、AUMS ならびに IcaUMS のメンバーにも周知し、広報活動を進めている。今後も、実行委員会メンバーを中心に準備を進める。

II 会議

令和2年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- ・ 通常総会は令和2年6月15日(月)に開催する。令和元年度事業報告および収支決算、令和2年度の事業計画および収支予算、定款変更、新役員体制などについて、審議および議決する。

2. 理事会

- ・ 令和2年度の理事会は、原則として5回程度開催し、総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実等について審議する。
- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化(運営戦略担当、学術連携担当)による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 特任理事(男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当)を中心に、学会に山積している諸課題を集中的に解決していく。会員への魅力的なイベントの企画・実施や、国際会議の円滑な運営など、特任理事は複数の委員会にまたがる事項の実務を担当する。
- ・ 広告数増を目指した活動や、会報「まぐね」の電子化に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行していく。
- ・ 理事会決定事項の状況把握と確実な推進のため、総務担当理事を重点化する。

3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会(Joint IcaUMS-ISAMMA2020)の期間中に、名誉会員懇談会、賛助会員懇談会、顧問会を合同で開催する。
- ・ 収集した意見について副会長および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。

III 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るために、財務体質の改善および会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 一昨年度より、副会長(運営戦略担当)をトップとして広告タスクフォースを立ち上げ、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る活動を継続したところ、広告収入が大幅な増加となった。今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を継続する。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 会報「まぐね」に関する支出減を実現するため、印刷・出版費支出と広告収入のバランスなど諸課題を検討する新たなタスクフォースを立ち上げ、今後の在り方について議論を進める。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会:

- ・ 理事会決定事項の進捗把握を進め確実な推進を行う。
- ・ 賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・ 男女共同参画事業など会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・ パワーマグネティクス分野などの、本学会の“ウィークポイント”を活性化させるべく、他学会との連携を強力に推進する。
- ・ **Joint IcAUMS-ISAMMA 2020, INTERMAG2023** などの国際会議の開催準備を中心となって進める。
- ・ 小学生を対象とした公開講演会を夏休み中に川崎市で開催する予定である。
- ・ 令和3年度に開催を予定している第7回岩崎コンファレンスについて、企画内容の検討と推進を中心となって進める。

◎財務委員会:

- ・ 財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出しを進める。
- ・ 会費収入増にむけた施策を提言する。
- ・ 財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。

◎企画委員会:

- ・ 賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会(**Joint IcAUMS-ISAMMA 2020**)を開催・運営する。
- ・ 需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス関係など)に関する初等的入門講座の実施を企画する。
- ・ 専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・ 学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会:

- ・ 学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・ 一昨年度行なった査読体制の見直しを利用し、迅速な査読を継続するとともに、投稿を促す周知活動を進める。

◎広報委員会:

- ・ 各種媒体を用いて、本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ 技術情報サービスのあり方を見直し、各種学会活動への誘導を図る。
- ・ ホームページ上のコンテンツを改善し充実させる。
- ・ 学会誌へのアクセスを増やすべく、ホームページの構成や電子媒体を用い改善を検討する。

◎国際委員会:

- ・ 本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・ 学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。

第4号議案 令和2年度(2020年度)収支予算に関する件

令和2年度(2020年度)収支予算書(正味財産増減計算書)

単位:円

科 目	2019年度	2020年度	増減(2020-2019)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,000	2,000	0
特定資産運用益	500	400	△ 100
受取会費	16,650,000	15,900,000	△ 750,000
入会金収入	150,000	200,000	50,000
正会員会費収入	11,100,000	10,500,000	△ 600,000
学生会員会費収入	700,000	700,000	0
賛助会員会費収入	4,700,000	4,500,000	△ 200,000
事業収入	18,564,020	38,050,000	19,485,980
学術講演会収入	7,262,020	28,360,000	21,097,980
研究会収入	1,850,000	1,750,000	△ 100,000
岩崎コンファレンス収入	1,000,000	0	△ 1,000,000
講習会収入	2,152,000	2,100,000	△ 52,000
投稿料収入	2,280,000	1,840,000	△ 440,000
著作権料収入	20,000	0	△ 20,000
広告料収入	4,000,000	4,000,000	0
雑収入	500,200	500,100	△ 100
受取利息収入	200	100	△ 100
雑収入	500,000	500,000	0
経常収益計	35,716,720	54,452,500	18,735,780
(2) 経常費用			
① 事業費	34,303,175	49,170,720	14,867,546
雑誌発行費	6,752,000	6,540,000	△ 212,000
会報発行支出(まぐね)	6,012,000	5,800,000	△ 212,000
論文発行費	600,000	600,000	0
電子ジャーナル	140,000	140,000	0
ウェブ管理費	500,000	481,471	△ 18,529
ホームページ管理費	500,000	481,471	△ 18,529
研究発表費	10,673,000	27,177,683	16,504,683
学術講演会開催	5,490,000	23,097,683	17,607,683
学術会合費	600,000	1,000,000	400,000
研究会開催	1,825,000	1,200,000	△ 625,000
講習会開催	1,538,000	1,550,000	12,000
岩崎コンファレンス開催	850,000	0	△ 850,000
専門研究会開催	370,000	330,000	△ 40,000
表彰・奨励費	300,000	250,000	△ 50,000
表彰費	300,000	250,000	△ 50,000
活性化費	200,000	120,000	△ 80,000
会議費	2,000,000	650,000	△ 1,350,000
諸委員会費	2,000,000	650,000	△ 1,350,000
給与手当	7,980,000	8,691,200	711,200
福利厚生費	1,295,000	467,600	△ 827,400
職員通勤交通費	280,000	378,000	98,000
退職給付引当費用	307,832	521,458	213,626
什器備品減価償却	0	120,400	120,400
賞与引当費用	626,343	638,260	11,918
事務所費	2,268,000	2,307,648	39,648
賃貸料	2,140,992	2,180,640	39,648
リース料	127,008	127,008	0
雑費	175,000	140,000	△ 35,000
支払保険料	50,000	50,000	0
その他費用	896,000	637,000	△ 259,000

科 目	2019年度	2020年度	増減 (2020-2019)
②管理費	7,740,360	7,827,814	87,454
給与手当	3,420,000	3,724,800	304,800
福利厚生費	555,000	200,400	△ 354,600
職員通勤交通費	120,000	162,000	42,000
通信・運搬費	75,000	75,000	0
消耗品費	30,000	30,000	0
印刷費	9,000	9,000	0
事務所費	972,000	988,992	16,992
賃貸料	917,568	934,560	16,992
リース料	54,432	54,432	0
諸謝金	540,000	440,000	△ 100,000
什器備品費	150,000	15,000	△ 135,000
租税公課	75,000	99,000	24,000
雑費	75,000	60,000	△ 15,000
払込手数料	45,000	45,000	0
会議費	950,000	1,100,000	150,000
総会費	350,000	350,000	0
理事会費	500,000	500,000	0
諸委員会費	100,000	50,000	△ 50,000
選挙管理委員費	0	200,000	200,000
ウェブ管理費	324,000	330,000	6,000
会員データ管理費	324,000	330,000	6,000
退職給付引当費用	131,928	223,482	91,554
什器備品減価償却	0	51,600	51,600
賞与引当金費用	268,432	273,540	5,108
経常費用計	42,043,535	56,998,534	14,955,000
当期経常増減額	△ 6,326,815	△ 2,546,034	3,780,781
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 6,326,815	△ 2,546,034	3,780,781
一般正味財産期首残高	24,786,369	18,459,555	△ 6,326,814
一般正味財産期末残高	18,459,555	15,913,521	△ 2,546,034
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	11,000,000
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	11,000,000
III 正味財産期末残高	29,459,555	26,913,521	△ 2,546,034

第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

2020年度名誉会員の推薦

大野 英男 氏 1954年12月18日生まれ

6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、かつ65歳以上の会員

*第95回(平成17年6月13日)

「半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究(共同研究)」で
日本学士院賞を受賞されています。

<https://www.japan-acad.go.jp/japanese/activities/jyusho/091to100.html>

公益社団法人日本磁気学会細則

第5条 名誉会員候補者は、理事会で審議し総会の承認を得て名誉会員となる。

2 名誉会員の推薦基準は下記のとおりとする。

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野の業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、かつ65歳以上の会員
- 7) 前1)～6)項に準ずる業績および功績のある者

第6号議案 役員1名の退任に伴う後任役員の推薦に関する件

◎本総会をもって、新妻清純理事より退任したいとの意向が出されたため、役員選挙規定に基づき、理事会では新妻理事の残任期を引き継ぐ、後任役員候補者を選出しました。

湯浅 裕美 氏（九州大学）

役員選挙規定

第10条

任期途中で役員が退任した場合には、後任役員候補者を理事会が選出し、総会での承認により後任者を選出する。

◎上記の通り、理事会より、湯浅裕美氏を理事候補として推薦いたします。